

(別添 4)

【埼玉県朝霞市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

現行学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、ICT の活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、子どもたちの資質・能力を育成することが求められている。

本市においては、第2期朝霞市教育振興基本計画「心豊かに 生きる力をはぐくむ朝霞の教育」を基軸とし、新しい時代に向けた魅力ある朝霞市の特色ある教育を引き続き推進していく。その中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現すべく、ICT 環境の充実と効果的活用により児童生徒一人一人の力を最大限に引き出す教育活動を進めていく。例えば、教育データを利用して児童生徒一人一人に応じたきめ細かい支援を行うことで、得意なところをさらに伸ばし、苦手を克服する一助にしたり、授業の中で定期的に情報活用能力を育成し、ICT を活用した課題解決力や表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組んだりするなど、予測不可能なこれからの社会を生きる子供たちに必要な「生きる力」を培っていく。

2. GIGA 第1期の総括

1人1台端末の整備については、令和3年度に11,119台配備し児童生徒への整備率100%を実現した。また、令和4年度に児童生徒増分と、コロナ禍による遠隔授業用として246台、令和5年度に児童生徒数増分として148台を整備した。ネットワークの整備については、令和3年度の端末配備と同時に市内全小中学校で整備が完了し、GIGA スクール構想の実現に向けた高速通信ネットワーク環境が整った。なお、ネットワーク環境については、令和6年度に1G回線から10G回線へと増強し、大容量のデータ通信や同時多台数通信に耐える環境を整えた。

また、情報の収集・整理・発信・共有及び個別最適な学びのためのツールとして、1人1台端末の日常的な利活用を図るとともに、1人1台端末の家庭への持ち帰りを推進し、デジタルドリル等を用いた家庭学習など、様々な場面で活用することで、授業改善、及び児童生徒の学習意欲の向上及びに努めた。

しかし、これまでの実態として、授業における学校間での活用状況の差が生じていることや、持ち帰り学習の頻度についても差が生じていることが課題である。

本市では、令和4年度より校内 ICT 環境整備や授業での利活用において優れた能力を発揮している教職員を、教育委員会が「ICT 推進リーダー」として任命している。GIGA

第1期における課題の解決のためには、「ICT推進リーダー」を中心に、各学校へのさらなる働きかけが求められる。市内各校の情報教育主任と「ICT推進リーダー」を交えてお互いの実践例を紹介し合ったり、ICT活用を推進していく中で課題となっていることを共有し、解決策を考え、共有できる機会を確保したりしていく。またその中で新しい課題が出た場合には、必要に応じて研修会を開催するなど、市内でのICT活用における課題解決に努めていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市で導入しているiPad(第8、第9世代)については、比較的高性能ではあるが、バッテリーの劣化やストレージ容量の不足により、今後の学習活動に支障が出る可能性もある。そのため、端末を適切に更新し、1人1台端末の環境を良い状態で維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

(1) 個別最適な学びの充実に向けて

本市においては小学校3年生以上の全児童生徒にAI搭載型学習ドリルを導入しており、主に授業内での習熟の時間や、家庭学習に活用している。一人一人の理解度に応じた、基礎となる知識・技能の習熟を図ることができ、自分のペースで学習を進めることができるものである。今後は、授業の中でもさらに活用を進めていくことで、支援が必要な児童生徒に教師が寄り添い支援する時間を確保することができたり、理解の進んでいる児童が発展的な問題に挑戦したりすることで、知識・技能の確実な定着だけでなく、学びに対する主体性も培っていく。また、本ドリルの学習履歴(スタディ・ログ)を活用し、児童生徒への支援に生かしていくことで、個別最適な学びの充実を目指す。

(2) 協働的な学びの充実に向けて

課題解決型学習を行う際、授業支援ツールや協働作業ツールを活用することで、「調べる」「情報を整理する」「考えをまとめる」といった授業の各場面に応じた効果的な活用を進めていくことで、児童生徒同士の対話を促し、協働的な学びの充実を目指す。また、「発表、表現する」「共有する」といった場面では、プレゼンテーション、動画作成等、様々な表現方法の中から児童生徒が自分の力で発表・表現する活動を通して、児童生徒の表現力を培っていく。

(3) 学びの保障に向けて

現在、各学校において、「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、不登校や体調不良により欠席した児童生徒に対し、オンライン会議アプリや協働活動ツールを用いて双方向型授業を行っている。GIGA第2期においても、日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援教育、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用していく。